

ボーイスカウト東京第四団

機 関 紙

No. 93

Sept 27, 1969



N 君の自信をさらに……

池 田 隆 夫

此の夏、唯一参加出来たカブ・スカウト・キャンプの中で印象的だったのは登山したときのN君のことである。N君は肥満児（失礼）、登山中人一倍汗をかき、一番後であえぎ、あえぎ登っている姿はいかにも苦しそうだ。何で登山なんかするんだよ」とか「もういやになつたよ」とか時々素っ頓興な声を上げていたが、一生懸命登っていた。暑い真夏の陽射の中ではあるし、私は彼が途中でバテテしまうのではないかと巨体(?)を見つめながら思っていた。しかし、彼はついに登り切った。この時、彼は「俺にも出来るんだ。これで自信を持てたぞ」といかにもうれしそうに言った。下山の時は、友達の荷物を「かついでやる」とまで言い出し、登山時とは打って変って元気いっぱいであった。

スカウトの教育目的の一つに自信を持つことが含まれている。辞典によると、自信は「自分の価値、能力を信ずること」とある。私自身は、自らが苦痛に打ちひしがれてはいながらも、他者の重荷を負うことを決意し、実践することの出来る自己であることを信ずることが「自信」であると思う。即ち、神によってそういうことの出来る自己にせしめられていることを信ずることだと思ふ。自分の価値、能力を人間的にのみ信じるならば、いきつく所は絶望であるし、絶対化するならば危険ですらある。又、「社会に奉仕し得る能力を……体得する」こともスカウトの目的の一つであるが、スカウト結成以来、第二次大戦終了までスカウトは軍国調を帯びていたという歴史を有している限り、奉仕し得る社会とはどんな社会であるのか、私達は考えねばならない。

私達の日常性は只単なる訓練に落入り易い傾向を持っている。この訓練の中でスカウトの目的、在り方を自覚的、意識的、主体的に鮮明にしていくことが私達に求められているのではないかと思います。特にリーダーの諸兄諸姉とスカウト教育について共に考えたいと願っている次第です。

楽しかったキャンプ！

苦しかったキャンプ！

思い出のキャンプ！

## カブ

副長補 原 真知子

東名御殿場インターチェンジより徒歩で約二十分。施設の整ったY.M.C.A.東山荘で、カブ移行後初めての舎営が行なわれた。

東山荘到着後、開会式・昼食とあわただしく舎営の幕が開いた。夜、期待していた星空は、あいにくの曇空で見ることができず残念だった。

第二日、乙女峠登山。急傾斜で足場の悪い道はかなりきつかったが、皆よくがんばり、特にデンチーフは荷物を一手に引き受け、大ハッスル！夜サークルファイヤーの後、きもだめしをやったが、スカウトよりデンマザーの方がこわがったとか。

第三日、芝生のグラウンドでのワイドゲーム。障害物・風船わり等、はだして飛びまわった。午後追跡ハイクをしながら、組毎に作った巣箱をかけた行ったが、途中から雨に降られてしまった。夜になっても雨は上がらず、キャンプファイヤーは室内で行なったが、暖炉に火を入れ、いつもとは

違った雰囲気です、楽しい一時を過ごした。

第四日、帰る準備をした後、野外料理をし、午後二時、御殿場に別れを告げた。

最後に、今回の舎営に御助力下さった方々、どうもありがとうございました。

## 一組 安 西 武 彦

今年のキャンプは、ぼくが、スカウトになってから、四回目で、カブスカウト最後の舎営でした。場所は、御殿場の、東山荘です。新宿を出て、東名高速を通りました。時間は一時間四十分です。東名高速を始めて、通ったぼくは、スピードを出して走っていてもあまり、感じないのにおどろきました。すばらしいけしきに、みとれていると、もう御殿場についてしまいました。東山荘につくと、部屋わりがあり、ぼく達一組は、三〇三号室になりました。部屋には、ベットが九つありました。今までのキャンプの中で最も、良い所でした。毎朝六時起床しよう、新しく入った人には、つらかったと思います。プログラムは色々楽しいものがありました。きもだめしや、キャンプファイヤー、ハイキングと、どれもみた、カブ最後だと思って、がんばりました。毎

朝の朝礼で、もらう賞は、一日目は何も取る事が出来なかったで、残念でした。二日目、ゆうしゅう組にえらばれたぼく達は、閉会式の時にも、最ゆうしゅう組になりました。とてもうれしかったです。一組の組長は、あまりはりきったので、終りには、声が出なくなり、次長と交代するという一まくもありました。キャンプファイヤーの時、中根君が王子になったので、みんな笑ってしまいました。リーダーのフラダンスはとても、面白かったです。マラソンコースは、東山湖半周や、きもだめしに、使った、お寺を一周とか、いのです。東山湖のほとりには、ブッシュリ塔があって、高さが五十七mもあり、とても良いけしきでした。近くには、「マツダ山荘」というかんばんのある、松田さんの別荘があたりりして楽しかったです。一番楽しい、食事は、セルフサービスです。食堂に入ると、一人で、おぼんに、のせて、運ぶのです。外国の子供も、時々、歩いていて、今までのキャンプには、見られなかった、事があり、とても楽しいキャンプ生活を送る事が出来ました。帰りはみんな、つかれた様子もなく元気でバスに乗りました。今年は、お母さんがデンマザーして下さいました。



つかれただろうと思います。ありがとうございます。ございました。

### 二組 渡辺 忠和

ほくたちは、七月二日の夜の七時半からきもだめしをした。まずデンチーフが先頭にたつた。ほくは四番めにたつた。とちゅうの道でお面をかぶった人が出てきたのでおもしろくなつたのでぎゅっとお面をはがした。つぎにデンマザーがお面を見てキヤーといっておどろいたのでほくの頭につかつた。急に暗くなったと思つたらろうそくの火がきえていた。しばらく明をつけないでそのまま少し歩いていたらホテルが見え始めてきた。門にはいったとたんにワツといっておどろかしたきた一組と二組がいた。ところがだれ一人びっくりしなかった。ほくは、次に来る四組を待っていた。十五分たつてもこないから大の字になつてねころんだ。そうしたらやつと四組がきたのでドラムカンの後にかくれた。がやがやいいながら門に入ってきたのでいっせいにワツととびだした。四組はおどろかなくたので少しがっかりした。あんがいこわくないおもしろいきもだめしだった。来年は

もっとおそろしい事を考えてほしい。

### 三組 三谷 昌彦

出ばつ時 ほくは、はじめてのキャンブなので むねが ドキドキしました。これから 四日間 どうなることやら心ばいしてしまいました。はじめのうちてんけんが できませんでしたが だんだんと できるよりに なりました。それにいろいろなこともおぼえました。

ハイキングの時 山の 上り 下りでくるしかつたですが だんだん なれてきました。

キャンブは、けっこう たのしいものでした。また キャンブの 日が 早く来てくれると いいと思います。

でも ちょっと さびしいです。でも みんなと いるので へっちゃらになりました。

ふつう りちで おきるのは、七じごろですが カブキャンブだと 六じにおきて ふとんを じぶんで たたむので とも いい きぶんでした。

ほくたち 三組は、『よくできたでしよう』を もらいましたが ほかの 組は、

二つか 三つ ぐらい 中には、八つももらった 組が ありました。それは、一組でした。それが くやしかったです。三組は、ぜんいん『こじんしょう』をもらいました。それぞれ ハッスルしようとか どりょしょう 新じんしょう など その人に よつて ちがうので ゆうしゅうでは ないと いうことでは ありません。ときには、上はら君に 歌の れんしゅうを させられた ことも ありました。そのときは、ちょっと くるしかつたです。お母さんが むかしの ぐんたい みたいねと おこりました。



## ボーイ

副長補 千代晴康

四十四年度少年隊夏季キャンプは、七月三十一日より八月五日まで、那須の八方高原で行なわれました。とても静かで、キャンプ地としては最高でした。ところが、着いた日から帰る日まで雨で、徹営は、大雨の中を予定を一日早め、必死の思いでした。電話もなければ定期バスもなく、雨で道がいたんで、バスが上まで来れなくなるのですから、ひょっとすると二、三日滞れなくなるのではないかと思いました。幸いな事には、今回のキャンプに、矢板市長さんをはじめ、市役所の方が大変御協力下さったので、その重大なピンチも、役所のダンブに救われました。私の役目は、会計兼食料庁長官でした。うわさによると、長官は、必ず腹をこわすという事だったので、胃腸薬をもっていき、どうやら難をまぬがれました。

来年はジャンボリーで、キャンプはないそうです。今からその次の年のキャンプを楽しみにしております。

## ウルフ班

小沢 隆

僕達は七月三十一日から八月五日まで野営を、栃木県矢板市八方高原学校平にして行きました。

僕にとっては初めての野営だった、しかし、大変面白かった。水くみや食器洗いがあつたが、初めての野営なのでしょうがないと思えました。僕達の班が使ったキャンプ地は本部から遠く木の根や雑草ばかりなので大変だった。ひどい所が多かった。

食事はおいしかったが、第一日目の夕食のカレーライスを作れなかったのは残念だった。しかし、最後の日の、バイキング料理はとてもおいしかった。よく食事に変更があつた。雨が多く、リンツ野営、小営火大営火がつぶれて中止になって了つたのは残念だ。静肅の時間は皆疲れた様で大変静かだった。だがゲームは皆一生懸命やった。設営や徹営は、設営は雨が降つたが、徹営は雨が降らなかつたので仕事がすこくはかどつた。公民館で泊つた時はすこくらくに寝られた。

全体的に雨が多く降つたしサイトがひどかつたのでつらい所が多かつた。

## シニア

副長 百塚健一

今年のキャンプは、七月二十一日から二十七日にかけて、新潟県の妙高々原の池ノ平で行なわれました。参加は、リーダー四名、スカウト七名、計十一名でした。周遊券を使い、往復、夜行列車を使用したもので、いろいろの出来事に会いました。行きでは、女子学生の団体がうるさくて、寝むれないし、帰りは、不良に出会つたり、いろいろ勉強させられました。

この妙高々原は、妙高戸隠固定公園に、指定されている所で、景色が良く、冬は、スキー場、夏は、避暑地という、高原独特の気候を持っている所です。

サイトは、草の茫々と生い茂つた木の多い所で、町のすぐ近くなのに、サイトには人が、ほとんど来ない所でした。サイトとしての難点は、アリの巣の多いこと、地が自然の芝なので、穴などを掘るのに、大変苦労しました。

このキャンプは、スカウトが初めから、終りまで、計画、実行した初めてのキャンプでした。今年の四月から、上級班長も代り、パトロールシステムから、メイトシス



テムにということ、上級班長などの、在り方など、キャンプ中に、デイスカッションをし、新入隊員との、チームワークもとれ、かなり密度の濃い、学ぶ所の多かったキャンプだったと思います。

### ローバー

## キャンプの思い出

加藤 理夫

「カナ・カナ・カナ・カナ」 キャンプ場に夕陽が沈む頃に鳴く「ひぐらしぜみ」、この声を聞くと、小学校五年の時の初めてのキャンプを思い出します。

親元を離れて生活するのも初めてで、長い時間電車に乗り、速い所につれて行かれた様で、冥は秩父でした。何も彼もが不安で、ありとあらゆる物を入れた自分の背よりも大きい、重たいリュックを担いで一歩あるくのにもようやくなのに一時間近くも、ひもが肩に食い込みながら線路づたいや険しい山道を背負って歩くのです。近く迄バスで送ってくれると思っていたのですが、班長や次長は自分の重たいリュックの他に今日から我々が寝るテントや食料品等をもかついで歩きました。キャンプ場によりやく着いた時もうキャンプには二度と来ないと思いました。

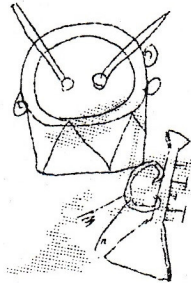
テントもどうやら建ち、夕食の用意をする時、新拾いを命令され薄暗い夕陽の中で

集めている時、ひぐらしぜみが鳴き、その声を聞くと楽しい東京に帰りたい、やさしいお母様に逢いたいと思ひ急に涙が出、泣きながら薪を拾いました。

近頃のスカウト等はその点恵まれていて少人数でも東京からバスを貸り切ってキャンプサイト迄送ってくれるし……

楽しい事より、苦しい事の方が一番思い出に残る様です。

今、思い出すと笑ってしまいますが、私には「ひぐらしぜみ」の鳴き声を聞くとホーム・シックにかかった当事を思い出します。



## 合同リーダー研修会

年少隊副長

片岡

孝

本年度の合同リーダー研修会は、八月十六日(土)～十八日(月)、奥多摩御岳山の山楽荘という国民宿舎を借りて開かれた。近くに御岳神社、日の出山、鐘乳洞、七代滝などがあり、静寂とした涼しい所で、環

境は良かったのだが少々交通の便が悪かった。参加人員は、GS側の内ゲバの影響や期待していたローバースカウトが少人数だった為、延べ人数で二十一名、ミーティングには十二～三名位しかいなかった。参加した顔ぶれは、去年とほとんど変わらず、他に飯先生、池田先生とあと数名の新しい人達が参加してくれただけなので、「ボイスカウト、ガールスカウトを知る」というこの会が開かれた当初の目的を全然達成することができなかった、それに教会との間に大きな断層があるということ、ミーティングの内容から感じられたテーマとして「リーダーの考えるこれからの四団のVISION」現代のスカウト活動が現代の子にどのように影響し反映しているか」という2つをあげたのだが、何しろ参加者が少ないためこのテーマをとりあげられず、結局去年のぶり返して「リーダーのあり方」について討論することになってしまった。団委員会から多大な援助金を出していたのだが、それに報いるだけの討論がなされなかったのは非常に残念である。

合同リーダー研修会を開く前に、団リーダー研修会を開いた方がいいのではないだろうか？ ボイススカウト側は、八月三十日(土)に教会で研修会を開いた。リーダー全員が、もっと自覚をもって研修会のあり方について、考えるべきではないだろうか？

## 報告

|| 団会議 || 七月十二日 出席者七名

一、各隊報告

一、合同リーダー研修会の件

|| 団委員会 || 七月十九日 出席者十九名

一、各隊からの報告

一、夏季キャンプ予定発表

一、バザー報告

一、指導者研修会について

一、合同キャンプファイヤーについて

一、名簿作成について

一、年少隊十五周年の報告

一、特別賛助会員について

|| B・Sリーダー研修会 || 八月三十日

出席者十二名

一、上進について

カブ・ボーイ・シニアは来年から四月上進が決定された。

カブは今年だけ十二月に行なわれる。

|| 団会議 || 九月十三日 出席者九名

一、各隊キャンプ報告

一、傷害保険について

一、ジャンプリーについて

一、ファイヤーの反省

## 人事報告

。大内少年隊副長は、勉学のため八月いっばいで退任されました。

。柳少年隊長は、日立家電を退職され、

九月二十一日からヤナギホームズ株式会社に勤務されました。

。おめでとー！ 杉原 正さん

十月二十六日 霊南坂教会でまちにまって、まちくたびれた「おやじさん」の結婚式が行なわれます。

## 四十四年度夏季キャンプ

年少隊舎営

七月二十一日～二十四日

静岡御殿場 東山荘

参加スカウト 二十七名

リーダー 十五名

少年隊野営

七月三十一日～八月五日

栃木県矢板市八方高原

参加スカウト 十六名

リーダー 四名

年長隊野営

七月二十一日～二十七日

新潟県妙高々原池ノ平

参加スカウト 七名

リーダー 三名

## 編集後記

暑い暑い夏がすぎ去り、秋風が駆け足で近づいてきました。夜になると種々の虫の声が聞こえ（東京の片田舎に住んでいるものですので……）、気分を一変して、我が制作欲に更に馬力をかけてコトコトと機を織りはじめた次第。

こんなに涼しくなってきたからのキャンプ特集号のスマイル、タイミングずれもはなはだしいのですが、夏を思い出してお読み下されば幸いです。

今年は大台風の年だそうですね。

皆さん！ 台風に必要な用具はそろっていますか？……。

「もちろんです。」

ホラ！ そなえよつねにですよね。

スマイル 第九十三号

発行日 昭和四十四年九月二十七日

編集人 杉原 正

発行所 港区赤坂一―一三―六

日本ボーイスカウト東京四団